

講演会報告

「子育てを楽しむヒントあれこれ」

10月1日(土)、白梅学園大学学長のしおみとしゆき夕見穂幸さんを招き講演会を開催しました。

夕見さんは、NHK テレビ「すくすく子育て」などで活躍している子育ての専門家であり、自身の育児体験も交えながら分かりやすく楽しい講演内容で会場は笑いに包まれ、和気あいあいとした雰囲気で行われました。

その内容を一部紹介します。

日本の男性は昔から「イクメン」だった!?

明治の初めに日本に来た外国人の印象記には次のように書かれています。「江戸の町角や店内で、裸のキューピッドがこれまた裸に近い頑丈そうな父親の腕に抱かれているのを見かけるが、これはごくありふれた光景だ。」(オールコック『大君の都』より抜粋)

そのほかの多くの文献にも、男性が子育てに大きく関わってきたことが分かる記述が多く見られます。

しかし、今の日本は、世界の中で最も育児・家事に携わる父親が少ない国の1つという調査結果が出ています。

どうして今、お父さんの登場が必要なの？

①子どもの能力が育ちます。

3歳児の発達と父子の関わり方の調査から、父親と関わりが強い子どもは、情緒性、自発性、社会性など全ての能力が、ほかの子どもより上位にあることが分かっています。つまり、お父さんが育児に登場することで子どもの能力が育つわけです。



②お母さんの孤独感、孤立感、不安感、イライラ感が軽減されます。

誰にも頼れずに子育てをするお母さんが増え、孤立感やイライラ感を抱えるお母さんが増えています。お父さんが相談相手になり一緒に子育てをすることで、お母さんのストレス発散になるだけでなく、子どもの発育にも良い結果が生まれます。

③お父さん自身の人生を豊かにしてくれます。

育児は楽しいだけでなく、子どもから多くのことを学べ、お父さん自身の人生を豊かにしてくれます。育児で培える危機管理能力や臨機応変な考え方は、仕事にも役立ちます。

これだけはお父さんにして欲しい！10か条

～妊娠期～

- ① ママのようすをきちんと観察しましょう。  
※妊娠中は、心身ともに不安定になりがちです。それを理解し、思いやりとサポートを惜しまずに。
- ② 検診には、最低1回は一緒に行きましょう。
- ③ 会社帰りに「何か買って帰るものある？」と電話しましょう。
- ④ 赤ちゃんグッズの買い物に一緒に行きましょう。



～出産後～

- ⑤ 名前を一緒に考えましょう。
- ⑥ 風呂入れや家事などできるだけ手伝い、ママが疲れないようにしましょう。  
※手伝って欲しいのは、育児より家事の場合も多いです。
- ⑦ 夜泣きが始まったら、時々パパが抱っこしてあやしましょう。
- ⑧ ウンチの始末などもいやがらずにしましょう。



～子どもが大きくなってきたら～

- ⑨ 1日1回は、子どものようすなどを夫婦で話し合ひましょう。
- ⑩ 読み聞かせ、外遊びなどお父さんが得意な育児を見つけ、楽しみましょう。



最後に一言…

子どもの「よいところ」を見つけて、そこを伸ばすのが親の役目です。ダメなところを直そうとする育児は子どもをよりダメにします。その「よいところ」は、親の見方によって変わります。お父さんも育児に関わることで、子どもがより深く見え、子育てが深まるのです。

～積極的に育児を楽しむカッコいい男性～  
今月の“イクメン”パパ



てらしま ひでき  
寺島 秀樹さん親子

かわいい娘、莉愛りなのパパです。休みの日は必ず一緒にお風呂に入ります。おむつ替えも今ではパパッとできるようになりました。

このコーナーへの掲載を希望される方は、人権・市民相談課にお問い合わせください。